

元気回復法

川崎ゆきお

「元気がないときはどうされますか」

「されますねえ」

「どんな方法で元気を回復されますか」

「それはねえ、弾を用意しているんですよ。これをやると、元気になります」

「その弾とは」

「好きなことですよ」

「はい」

「ただ元気がないときなので、大きな動きはできませんがね。趣味程度。一番いいのは欲しかったものを、そういうときに買うのです。これはテンションが上がります」

「余計に具合、悪くなりませんか」

「そこまで不元気じゃないので、その程度はできる元気は残っていますよ。これが効かないときは余程元気がないというか、入院でもしないといけないときでしょうねえ」

「精神的な面では」

「ああ、気が滅入ったり、そんなときですか」

「はい」

「やはり、弾ですよ」

「買い物とか」

「そうです。例えばつぶれかけの扇風機を新品にするとかね。最近はネットショップで買います。だから、出掛けなくてもいい。先ずそれが届くのが楽しい。中一日で届くことが多いのですが、当日、じっと待っています。早く回してみたいですからね。その待つのも楽しい。これで、殆ど元気回復ですよ」

「簡単でいいですねえ」

「あなたは？」

「私は問題が解決しないと、元気が出ません」

「あ、それは大変だ。まあ、世の中解決しない問題ばかりでしょ」

「あ、はい」

「好きなことはないのですか」

「ありますが、元気がないときはやる気もしません」

「あ、そう」

「私も、あなたのように弾が欲しいです。特効薬のようなものでしょ」

「それには弾を用意しておかないといけませんよ。弾切れになることが多いですから」

「欲しいものが変わるとか、やりたいことが変わるとかですか」

「弾は何発もありません。扇風機のようなのは小さな弾でしてね。まあ、二三日で終わるようなネタですが、そのときの気分が大事なんです。これで一瞬気をよくしたり、楽しんだり、興奮したりします。ただ、扇風機ですからねえ。それほど大はしゃぎするようなものじゃないですが、やっと音が静かな扇風機に買い換えたという満足感があるのです。この小さな充実が、いいきっかけになる。一度いい思いをすると、もっとしたくなる。といってもう一台扇風機を買うわけにはいかない。二十年、いや三十年の蓄積があります。その扇風機にはね。気になりだしたのは五年前からですが、この弾は一日では作れない」

「何か、違う話のような」

「え、何が違います。元気の出る方法でしょ」

「そうなんです、そんな扇風機で治りますか」

「治ります」

「ああ、はい」

「気持ちの流れで変わるのです。それこそ風の流れ、空気の流れ。扇風機だけに具体的でしょ」

「その風ではなく、人生の」

「また、大きなネタを」

「目先のことでは誤魔化せないような」

「それは根が深い。まあ、それは解決しないでしょ」

「はい」

「じゃ、損じゃないですか。ネタが悪すぎますよ」

「そうですねえ、扇風機が故障しているなら、簡単ですよ」

「それが解決すると、その後の流れが、少しだけ変わりますよ。気分がいいし、機嫌もしばらくいい。それに乗ることです」

「じゃ、私も扇風機を買います」

「故障ですか」

「いえ、五年前買ったもので、無事です」

「それじゃ、効果がない。他に、何かあるでしょ」

「はい、探してみます。あ、そうだ。使えるカメラがありません。長いこと、買っていない。フィルム時代のカメラで、一生もののライカだったんですが、使う気がなくて。今はデジカメでしょ」

「非常に良いことを仰る」

「そうなんですか」

「適当に一台買ってみればよろしい。安いですよ。今」

そして、本当にデジカメを買ったようだが、元気が出たかどうかは分からない。

了